（様式 3-1）

2026 年 2 月 27 日

当院で経験した極端な空胞症候群(Empty Follicle Syndrome）の予後
に対するご協力のお願い

研究代表 所属 オガタファミリークリニック
氏名　　緒方誠司

このたび、当院倫理審査委員会の承認のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、お申し出下さいますようお願いいたします。

１　対象となる方

西暦 2017 年 2 月より 2024 年 9 月までの間で、穿刺卵胞数が 10 個以上で且つ回収卵数が 0 個であった方

２　研究課題名

施設倫理審査委員会の承認番号　　001

研究課題名 当院で経験した極端な空胞症候群(Empty Follicle Syndrome）の予後

３　研究実施機関

オガタファミリークリニック

４　本研究の意義、目的、方法

採卵において,卵胞を穿刺しても卵子が全く獲得できない空胞症候群(Empty Follicle Syndrome,以下 EFS)を経験する事があります。以前よりこの現象は報告されており,古くは 1986 年に報告があります。その後もいくつか臨床的な EFS について検討した研究やレビューが行われており,EFS は全採卵の 0.045～7%で発生すると言われています。一方で,EFS が発生する機序はいくつかの要因は,報告されていますが未だはっきりとはわかってはいません。そして, EFS についての研究では,発育卵胞数が少数の症例も含めた議論がなされていますが,しかしながら実際の臨床上では、発育卵胞が多く,多数の卵胞穿刺を行うも卵子が得られない極端な EFS 症例に遭遇することがあります。このような極端な EFS 症例は,患者様にとっての身体的,精神的,経済的な負担は大きいと考えられることから今回我々は,当院で経験した EFS 症例のうち特に極端な場合に注目して,その背景や経過について後方視的に検討します。

５　協力をお願いする内容

臨床検査のデータ、診療記録、採卵時の穿刺卵胞数、回収卵数

６　本研究の実施期間

西暦 2026 年 3 月～2026 年 9 月

７　プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

８　お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、当院へご連絡をお願いいたします。

研究代表者・分担者
久保田　陽子
TEL:0797-25-2213
FAX:079725-2214